

2021年7月21日

## *Candida auris* の日本語表記について

日本医真菌学会用語委員会

### 背景

ゲノム解析ならびに分子系統解析技術の進歩に伴い、真菌症に関わる新種の発見や分類の再編が著しい。これらの研究はグローバル展開されることが基本であり、真菌命名法も明確にされている。一方、日本では、公用文は全て日本語で記述され、各種法令において日本語を用いることが規定されている。また、学校教育においては「国語」として日本語を教授しており、唯一の公用語としての地位を確立している。医療分野においても、各種の規定は日本語で表記されており、疾患名や病原体の名称として日本語表記が求められている。

日本医真菌学会では、2007年に「医真菌関連起因菌の分類と学名に関する小委員会（委員長 鈴木基文）」を組織し、真菌の日本語表記について見解をまとめた（以下に抜粋を示す）。また、それに基づき、具体的に *Pneumocystis jirovecii* に関する日本語表記を提案した。さらに、この基本的な考え方に基づき、医真菌学会 HP には、菌名のカタカナ表記を掲載している。

---

### 医真菌関連起因菌の学名、日本語表記（和名またはカタカナ表記）についての見解

（以下に抜粋を一部改変して示す）

医真菌関連起因菌等（以下、医真菌とよぶ）には、真菌、細菌（放線菌、ノカルジア等）、および微細藻類が含まれ、各々国際植物命名規約または国際細菌命名規約に基づいて、その学名はラテン語で記載されている。一方、学名とは別に各々の生物に対して我が国で通用する名称（和名）が付されている場合がある。学名とは異なり和名には必ずしも厳密な学術的意義を与えられないが、一般的な教育や国内における法令上の記載等の必要から、学名と対応する日本語表記の存在が必要とされている。

既に一部の菌に対しては、必ずしも一意対応とは限らないが、古くから比較的厳密な和名が通用している（*Trichophyton interdigitale*=趾間菌、*T. mentagrophytes*=毛瘡菌等）。しかし、多くの医真菌に和名は決められておらず、必要に応じて随時学名をラテン語読み、ローマ字読み、英語読み、フランス語読み、ドイツ語読み等々によって適当にカタカナ表記してこれに変えていた。これらを踏まえ、本小委員会において定めようとする医真菌に対する日本語表記は以下の原則によるものとする。

原則1) 学名と対応する日本語表記の存在が求められている以上、ここで決める名称は学名に準ずるものではなくてはならないから上述の和名ではなく、その対応関係を明確にするために学名のカタカナ表記とする。

原則2) カタカナ表記の原則は、学名に対するラテン語の読み方とその慣例を原則とするが、より一般的に通用する読み方があればこれを選択する。

原則3) これまで本学会で慣れ親しんだ名称であって、これがすでに一般化されているものについてはそれを採用する

原則4) 一般的に通用させるため、カタカナ表記は可能な限り平易なものとする。

---

## C. auris の日本語表記の提案の根拠

C. auris は、2009 年に新種記載された病原酵母である。本菌は高い環境生残性と抗真菌薬耐性傾向を示し、国内の菌血症例が発生すると、感染症法の対象になる可能性がある重要な菌種である。国内では、学術雑誌等において、本菌に対して複数のカタカナ表記が用いられており、混乱のもととなる可能性がある。そこで、日本医真菌学会として推奨するカタカナ表記を定めるべく、本検討に着手した。

推奨する日本語表記を定めるために、先に示した見解に基づき検討する事とした。

原則 1) に基づき、日本語表記は、学名のカタカナ表記とする。

原則 2) に基づき、カタカナ表記の原則は、学名に対するラテン語の読み方とその慣例を原則とする。命名者は原著において、*Candida auris* (au'ris. L. gen. f. n. *auris*, isolated from the ear discharge of a human patient) と記載しており、その「読みと語源」は、外耳道炎症例から見出されたことに基づき、ラテン語の「耳」を意図して、auris としているので、「耳」のラテン語をカタカナ表記とした、アウリスが妥当である。

原則 3) において、本菌の命名者は、本学会会員であり、当該命名者は、カンジダ・アウリスと表記し、学会、論文、HP 等において、この表現を用いていることから、慣れ親しんだ名称になっている。

原則 4) において、平易なものとしており、アウリスはカタカナ 4 文字から構成されていることから、平易な表現といえる。

以上、原則 1～4 のいずれにおいても、本菌のカタカナ表記を「カンジダ・アウリス」とすることを推奨している。

**結論：**以上、本学会で示した「医真菌関連起因菌の学名、日本語表記（和名またはカタカナ表記）についての見解」にもとづき、本菌の日本語表記は、「カンジダ・アウリス」とすることを提案する。

(参考文献)

新種の発見・命名（原著論文）

1. Kazuo Satoh, Koichi Makimura, Yayoi Hasumi, Yayoi Nishiyama, Katsuhisa Uchida and Hideyo Yamaguchi, *Candida auris* sp. nov., a novel ascomycetous yeast isolated from the external ear canal of an inpatient in a Japanese hospital. *Microbiol Immunol* 2009; 53: 41–44 doi:10.1111/j.1348-0421.2008.00083.x

発見者らが用いているカタカナ表記

2. 総説 真菌、*Candida auris*, 榎村浩一、臨床と微生物 46-5, 57-, 2019. (冒頭の記述) *Candida auris* (カンジダ・アウリス; auris はラテン語で「耳」の意) は、2005 年に我が国の外耳道炎症例から見出され、2009 年に命名記載された病原酵母である。
3. 解説 カンジダ・アウリス (*Candida auris*) 感染症 初の真菌性新興感染症 山口英世、モダンメディア 63-9, 213-, 2017
4. ウェブ カンジダ・アウリス リファレンス センター *Candida auris* Reference Center (CARC) ;

Website of Medical Mycology & Space Environmental Medicine 帝京大学大学院医学研究科 医真菌学・宇宙環境医学 教授 医師・博士（医学） 槇村浩一

5. AMED プレスリリース（掲載日 平成 30 年 10 月 29 日）パンデミック真菌カンジダ・アウリスを 1 時間以内に検出・診断できる遺伝子診断法を開発・発表—国内流行に備えた実証試験へ—
6. ガイドライン 日本医真菌学会編：侵襲性カンジダ症に対するマネジメントのための臨床実践ガイドライン（委員長 竹末芳生（兵庫医科大学）、槇村博士は分担執筆者）

#### 委員

大野尚仁（委員長）、石橋健一、梅山隆、大野秀明、加納壘、木村雅友、佐藤友隆、豊留孝仁、浜田幸宏、矢口貴志、山田剛（以上 11 名、五十音順、敬称略）

※パブリックコメントは医真菌学会事務局（[kaiin@jsmm.org](mailto:kaiin@jsmm.org)）へお寄せください。

期限：2021 年 8 月 3 日（火）～8 月 31 日（火）